



兵庫。パルプ工業株式会社

国内最大の未晒クラフトパルプの製造工場

【会社概要】

- 所在地 丹波市山南町谷川 858
- 電話番号 0795 - 77 - 1081
- 主な事業 パルプおよび電力の製造・販売
- 従業員数 148 人

何をしている会社？

昭和30年2月に創業された兵庫パルプ工業株式会社は、製材廃材や建築廃材の木材チップを原料とした未晒クラフトパルプ（UKP）を生産し、パルプ生産設備を持たない国内の板紙、建材メーカーに販売しています。一方、中国や東南アジアにも輸出しており、国内唯一のUKP市販専門メーカーです。

また、パルプ生産工程で発生するパルプ蒸解廃液（黒液）とリサイクル材・未利用材を



木材チップから製造されたドライパルプ

燃料とした2基のバイオマス発電設備により、バイオマスエネルギーを地域社会に供給しています。

ここが一押し！

市販UKP工場では、国内初となるパルプドライマシンを設置し、平成27年5月から本格的に稼働しています。

従来生産していたパルプは水分を約50%含んだウェットパルプでしたが、ドライマシンにより、水分が約10%まで低減されます。

■ドライパルプの利点

①輸送効率が高くなり、ウェットパルプの2倍の製品を輸送することが可能になりました。製品輸送のトラックを減少させることにより、CO₂排出量が削減でき、地球温暖化防

止に貢献します。

②水分が少なくなることで、カビの発生や凍結のリスクがなくなり、海外を含む遠隔地への出荷が可能となります。

③長期間保管しても品質が劣化しにくく、従来よりも少ないスペースで保管ができるので保管効率が向上します。

商品力が大幅に向上したパルプは、幅広いユーザーから信頼を得ています。



新たに導入されたパルプドライマシン

INTERVIEW

トップからのメッセージ

代表取締役社長 井川 雄治氏

パルプドライマシンとは、パルプの乾燥設備です。設備に必要なエネルギー（蒸気・電気）は、バイオマス燃料で100%供給され、バイオマス発電の熱電併給システムをさらに進めました。また、子会社パルテックエナジー(株)において、未利用材・一般材・リサイクル材を新たな視点から活用した新バイオマス発電事業の開始を決定しました。新バイオマス発電設備は一般家庭で使用する電力の約4万4000戸分に相当する2万2100キロワットの電力を発電する計画で、平成29年12月の稼働を予定しています。

当社は、「パルプ」と「バイオマスエネルギー」を製造し、木質資源を余すところなく有効利用する企業をめざし、林業と森林の再生、活性化ならびに地域社会にやさかでも貢献していきたいと考えています。若い感性と発想力を持った方、ぜひ当社で働きませんか。

きらめき★インタビュー 若手社員 の声



左から藤永静香さん、原田百々子さん、下田瑞希さん

職場だけでなくプライベートでも同期の仲間や先輩・後輩たちと仲良くさせていただいています。また、組合行事などでは他の企業の方との交流も深めています。資格取得のサポートやお客様の対応、電話応対など上司や先輩から丁寧に指導してもらっているのでやりがいのある毎日を過ごしています。

市長からのメッセージ 【こちら市長執務室】



丹波市長 田 重五郎

ちーたん CD が完成

上久下コーラスさくらんぼが合唱曲「丹波竜のちーたん」CDの完成報告に訪れました。地元の上久下小学校で児童たちと録音を行った曲を含め、全8曲が収録されています。「聴いて、歌って楽しんでもらいたい」と話してくれました。



「テーマ」

「総合的な土砂災害対策検討ワーキンググループ」会議を終えて

地域の災害リスクの把握・共有、住民などへの防災情報の伝達、適時適切な避難行動、まちづくりと国土保全対策の推進、災害発生直後からの迅速な応急活動といった5項目を今後の土砂災害対策への提言としました。

報告書には、1ページを割いて丹波市の被災状況や応急の取り組みなどが紹介されており、土砂災害対応の模範例として評価をいただきました。評価のポイントは大きく2つです。1つ目は避難勧告の際、夜中という

状況を勘案し、垂直避難、すなわち2階など家の高いところへの避難を勧告したことです。また、勧告のタイミングについては、過去の災害時の教訓と兵庫県が提供している1kmメッシュ情報をもとに適切な対応ができたと考えております。結果、昨年全国7市町で発生した大規模土砂災害のうち、被災前に勧告を発令したのは丹波市のみで、人的被害を最小限に止めることにつながりました。次に、2つ

目のポイントは大雨のなか、自治会長などが各戸を訪ね避難を呼び掛けたことです。報告書では、自治会関係者の協力が非常に重要であったと考察されています。自治会関係者には避難所への誘導をはじめ、見守りや声かけなどの重要な役割を担っていただきました。あらためて市民みなさんの日ごろからの協力に心から感謝する次第です。

一方、豪雨災害発生から10か月が経過しましたが、未だ自宅に帰ることができない方が約60

人おられます。1日も早い復興のため「心つながり」を合言葉に104カ所の溪流や急傾斜地に砂防堰堤、治山ダムなどの建設を進め、来年度完成をめざしています。また、本市の基幹産業である農林業の再生事業もスタートしました。さらに、この8月末には、災害で落橋した八日市橋が完成予定で、復興のシンボリック的存在になると考えています。

今年も梅雨期や台風シーズンを迎えます。昨年の豪雨災害を教訓に、日ごろから高い防災意識をもち災害に備えていただくことを切に願うとともに、市でも復旧復興、安全・安心なまちづくりに向けて全力で取り組んでまいりますので、ご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。